ナンバリング	段階	コース	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標						
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6										
BUN99-1-001	入門	共通	進級研究・制作1	必修	1	講義・演習	2	4Q							30	20	10	10	10	20	文芸表現の基礎教養についての統合的講義と、1年次ポートフォリオの作成	1年次の1Q～3Qをとおして修得してきた、正しい日本語知識を含む文芸表現の基礎教養(読む書く編む聞く話す)についての統合的な講義を受けながら、その成果物として、これまで書きあげた文芸作品のブラッシュアップによる「1年次ポートフォリオ」を作成する。また、文芸表現の学びに直接的に結びつく主要な専門職(小説家、脚本家、放送作家、記者・ライター、編集者など)についての基礎知識を修得し、今後の研究・制作のヴィジョンを獲得していく。	正しい日本語知識を含む文芸表現の基礎教養をより体系的に理解し、1年次に書きあげた文芸作品を適切にブラッシュアップすることができる。また、主要な文芸専門職についての基礎知識を修得し、今後のヴィジョンについて積極的に考えることができる。	正しい日本語知識を含む文芸表現の基礎教養をより体系的に理解し、1年次に書きあげた文芸作品を適切にブラッシュアップすることができる。	
BUN99-1-002	入門	共通	文芸表現入門	必修	1	講義	2	1Q						80						20	文芸表現の導入として、日本語文章の基礎知識と、多様な文芸ジャンルを学ぶ	文芸表現学科の学びへの導入として、学科の専門性につながる日本語文章の基礎知識・意識を修得する。また、ことばを「読む」「書く」「編む」「聞く」「話す」ことのうち、まずは「読む」「書く」「編む」に重点を置き、ごく短い文芸作品の読解・要約のほか、小説・脚本・編集・取材執筆・詩など、主要な文芸ジャンルに関する基礎教養を身につけることを通じて、学科における初期学習に力を注ぐ。その際、各回の内容に応じた課題への取り組みと、教員による課題フィードバック・添削後の復習を通して、文芸表現の基礎力を着実に養う。	日本語文章の基礎知識と、主要な文芸ジャンルについての基礎教養を修得できる。また、今後の文芸表現の素材となる、自身の関心事について広く深く調査・報告することを通して、その関心事を多方面に拡大していくための技能と意識を身につけられる。	日本語文章の基礎知識と、主要な文芸ジャンルについての基礎教養を修得できる。また、今後の文芸表現の素材となる、自身の関心事について広く深く調査・報告することができる。	
BUN99-1-003	基礎	共通	文芸表現基礎	必修	1	講義	2	3Q						60	20					20	文芸表現の基礎として、すべてに徹底する編集的思考と一般的な文芸術を学ぶ	日本語文章の専門的な知識を定着させることに加えて、文芸表現の素材となり、また発信先ともなる自らの関心事を社会と結びつけながら体系的に調査・取材し、それを他者に魅力的に伝えるための文章も探求することで、すべての文芸表現に通用する「編集的思考」と「基礎的な文章執筆」を重点的に学んでいく。また、他者や社会に目を向けることを通して、ことばを「聞く」「話す」ことの重要性についての意識も高め、自己理解と他者への関心・共感する姿勢を養う。	日本語文章の専門的な知識を修得できることに加えて、自らの関心事を社会と結びつけながら体系的に理解し、それを他者に発信するための「編集的思考」と「基礎的な文章力」を修得できる。また、その工程において、ことばを「聞く」「話す」ことも積極的に実践し、他者に目を向けながら言葉と耳を傾ける柔軟性も獲得し、自分自身が文芸の世界で活躍するために必要となる文章表現力を修得できる。	日本語文章の専門的な知識を修得できることに加えて、自らの関心事を社会と結びつけながら体系的に理解し、それを他者に発信するための「編集的思考」と「基礎的な文章力」を修得できる。また、その工程において、ことばを「聞く」「話す」ことについても積極的に取り組むことができる。	
BUN99-1-004	入門	共通	百讀1	必修	1	講義	2	1Q						70						30	多様な文芸作品に触れ、文芸表現の学びの礎となる読みとく力を高める	高大接続の実践として、一定の評価を得たよく知られた文芸作品を読み、その読みとき方の更新をめざす。作品要約と批評的コメントを繰り返しアウトプットすることで、文章表現の技法や形式上の工夫について正確に理解する力をつける。ディスカッションやプレゼンテーションを行うことで他者と知見を交換しながら、文芸の世界を学んでいくために必要となる文章読解力の基礎を形成する。	文芸表現学科でのすべての学びの礎となる、文章で表現された物語世界を正しく理解する読解の基礎的な力を身につけられる。学修初年度に押さえおくべき、古典的名作も含めた文芸作品を数多く読み、理解し、それについて語るための言語化の力や論理的思考法を獲得できる。他者の意見に耳を傾ける柔軟性も獲得し、自分自身が文芸の世界で活躍するために必要となる文章表現力を修得できる。	文芸表現学科でのすべての学びの礎となる、文章で表現された物語世界を正しく理解する読解の基礎的な力を身につけられる。学修初年度に押さえおくべき、古典的名作も含めた文芸作品を数多く読み、理解できる。	
BUN99-1-005	基礎	共通	百讀2	必修	1	講義	2	2Q						70						30	多様な文芸作品を読みとく力を高め、批評性を養う	ジャンル、時代、日本語作品か翻訳作品かにとらわれず幅広い文芸作品を読み、内容を正確に理解する読解力を向上させる。作品要約と批評的コメントを繰り返しアウトプットし、また、ディスカッションやプレゼンテーションを行うことで他者と知見を交換することで、自身の読みを客観的に検討する批評性も養う。文芸の世界を学んでいくために必要となる、現代的な知見と高い文章読解力および表現技法の理解力を獲得する。	文芸表現学科でのすべての学びの礎となる、文章で表現された物語世界を正しく理解する読解力に加え、多ジャンルかつ現代的な文芸作品を数多く読み、文芸の世界のフロントラインを理解できるようになる。また作品についての理解を語るための言語化の力を高め、批評的な客観性を養うとともに、他者の意見に耳を傾ける柔軟性も獲得できる。自分自身が文芸の世界で活躍するために必要となる文章表現力をさらに向上させることができる。	文芸表現学科でのすべての学びの礎となる、文章で表現された物語世界を正しく理解する読解力に加え、多ジャンルかつ現代的な文芸作品を数多く読み、批評的な客観性を養うとともに、他者の意見に耳を傾ける柔軟性も獲得できる。	
BUN99-1-006	基礎	共通	文芸メソッド1	必修	1	講義	2	4Q						50						20	文芸表現において「何を」表現するかといった企画論を学ぶ	文芸表現に必要な「何をテーマに企画立案するか」の重要性を知り、自身が文芸作品を通して読者や社会に届けたい内容を掘り下げて言語化するための考え方を学ぶ。そのうえで、適切な調査も行いながら、自らにとって取り組む必然性があり、今の時代において社会に発信する意義のある企画を実践的に立案する。また、過去の文芸作品が「何を企画したのか」という前例を幅広く吸収し、他者の表現や社会的文脈をふまえたうえで企画立案することの重要性を理解する。なお、講義での学びを深めるために、自らの企画書を課題として作成する演習にも取り組む。	自らの文芸表現について、自身の意欲や問題意識を高めるだけでなく、過去の文脈をふまえた独創性の大切さを理解して、「何をテーマとして企画を立案するのか」ということへの知見を獲得できる。また、自身の企画を客観的な視点から眺め、他者を納得させられるような魅力的な企画をつくり、伝えることができる。	過去の文芸作品が何を企画したのかをふまえた上で、読者や社会を考慮し、適切な調査を行いながら、自身が何をテーマにするかを掘り下げ企画立案するための知見を獲得できる。	
BUN99-1-007	入門	共通	文芸創作ワークショップ1	選択	1	演習	2	2Q						30						50	20	多様な文芸創作の入門編として、まずはごく短い文芸作品の執筆に取り組み	文芸創作の入門編として、自身の志向に合わせて文芸ジャンルを選択し、まずはごく短い文芸作品を執筆する。これを通して、自身の関心と感性から得られた発想を統合・編集して作品化する思考力や、企画した作品に必要なとされる専門知識や執筆形式を修得し、さらには文芸創作のための基礎体力を養う。また、執筆した作品の合評や、教員からの講評を通して、読者に届く作品とはなにかについて考えていく。	自身の興味・関心と豊かな感性から得られた発想を統合・編集して、ひとつの文芸作品を書ききることができる。また、その全工程を通して、企画した文芸作品に必要なとされる専門知識や執筆形式を修得し、かつ文芸創作のための基礎的な思考力と体力を身につけられる。	自身の興味・関心と豊かな感性から得られた発想を統合・編集して、ひとつの文芸作品を書ききることができる。
BUN99-1-008	基礎	共通	文芸創作ワークショップ2	選択	1	演習	2	3Q						30						40	30	文芸創作の基礎固めとして、初心者から脱した習作レベルの作品を執筆する	文芸創作の基礎固めとして、自身の興味・関心にふさわしい文芸ジャンルや作風を自覚的に対象化し、企画した作品に必要な専門知識や執筆形式などのレクチャーを受けながら、初心者から一歩脱した習作レベルの文芸作品を執筆する。これを通して、これまで修得してきた日本語文章の基礎力や、授業内でレクチャーされた各種メソッドを実際に運用する力を修得する。また、執筆した作品の合評や、教員からの講評を通して、読者に届く作品とはなにかについて、感性と論理の両面から考えていく。	企画した作品に適したリーダビリティの高い日本語文章力や、文芸創作にかんする各種メソッドを適切に運用して、初心者から一歩脱した習作レベルの文芸作品を書ききることができる。また、執筆～合評・講評までの全工程を通して、文芸創作のための思考力と体力を身につけ、読者に届く作品とはなにかについて感性と論理の両面から考えることができる。	企画した作品に適したリーダビリティの高い日本語文章力や、文芸創作にかんする各種メソッドを適切に運用して、初心者から一歩脱した習作レベルの文芸作品を書ききることができる。
BUN99-2-011	基礎	共通	進級研究・制作2	必修	2	講義・演習	4	4Q						20	30	10	20	10	10	10	文芸表現・創作についての応用的講義と、2年次ポートフォリオの作成	これまで修得してきた文芸表現の基礎教養や、自らの文芸表現の素材となる関心・テーマについての体系的理解、文芸創作の各種メソッドについての応用的な講義を受けながら、それらを適切に運用することで、2年次に書きあげた文芸作品について、見知らぬ読者を意識しながらブラッシュアップしながら2年次ポートフォリオを作成する。また、これまでの研究・制作活動をふりかえりながら、今後さらに深く追求していきたい文芸ジャンル(小説・脚本・編集ノンフィクション・評論など)について自己分析し、3年次作品展までの制作計画書を作成することで3年次からのゼミ選択の材料とする。	文芸表現の基礎教養や創作のメソッドをより深く一歩進んで理解し、2年次に書きあげた文芸作品について、読者を意識しながら適切にブラッシュアップすることができる。また、今後さらに深く追求していきたい文芸ジャンルについて自己分析し、3年次作品展までの制作計画を積極的に組み立てることができる。	文芸表現の基礎教養や創作のメソッドをより深く一歩進んで理解し、2年次に書きあげた文芸作品について、読者を意識しながら適切にブラッシュアップすることができる。	

ナンバリング	段階	コース	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学習目標	到達目標						
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6										
BUN99-2-012	応用	共通	文芸表現応用1	必修	2	講義	2	2Q							50	30	20	文芸表現の多様な学びを応用して、社会との結びつきについて考える	ここまでの「文芸表現シリーズ」で修得した内容をふまえ、ことばを「読む」「書く」「編む」ことに重点を置いた「要約」「基礎的な文章力」「編集的思考」、「聞く」「話す」ことに重点を置いた「他者とのコミュニケーション」について、より一歩踏み込んだ応用的な理解と、目的に応じた適切な運用方法を身につけていく。また、今後の本格的なキャリア学習に備え、文芸に関連する社会的なテーマや課題について、必要十分な調査と、グループごとのディスカッションやインタビュー取材といった協働作業を通して、批評的・共感的に考察していくことで、基礎的な社会性の修得につとめる。	これまで履修してきた日本語文章表現の知識・技能や編集的思考を適切に運用し、文芸に関連する社会的なテーマや課題についての、十分な調査力と批評的・共感的な考察力を修得できる。また、他者との相互理解に基づく協働作業を通して、基礎的な社会性も身につけられる。	これまで履修してきた日本語文章表現の知識・技能や編集的思考を適切に運用し、文芸に関連する社会的なテーマや課題についての、十分な調査力と批評的・共感的な考察力を修得できる。				
BUN99-2-013	応用	共通	文芸表現応用2	必修	2	講義	2	3Q							60	20	20	文芸表現の学びをさらに応用して、社会に出る意識を醸成する	これまで修得してきた文芸表現の学びを、実社会と直接的・応用的に結びつけ、卒業後にことばの力で社会を編み直していくために必要な準備をする。それにあたって、まずは文芸表現に関連するさまざまな専門職・応用職についての体系的な知識を身につけ、次にそれを自身の関心に照らすことでさらなる「問い」を導き出し、その問いに対する必要な情報を主体的に調査・取材することで、3年次にインターンシップに参加するためのレディネス形成につとめる。	文芸表現の学びを、社会と直接的・応用的に結びつけることができる。また、文芸表現に関連するさまざまな専門職・応用職についての体系的な知識を獲得し、それを自身の関心に照らしたときに必要な情報を、主体的に調査・取材することができる。	文芸表現の学びを、社会と直接的・応用的に結びつけることができる。また、文芸表現に関連するさまざまな専門職・応用職についての体系的な知識を獲得できる。				
BUN99-2-014	応用	共通	百讀3	必修	2	講義	2	1Q							50		20	30	多様な文芸表現を読みとき、その文化的・歴史的背景も理解する	多角的な解釈を可能とする、多様な文芸作品を読み、ディスカッションや考察、プレゼンテーションをつうじて他者と知見を交換しながら、自身の読解力を向上させる。文芸の世界で必要となる文章表現の技法や文学理論の理解を深めることとあわせて、作品のもつ文化的・歴史的コンテクストを探求し、時代も距離も異なる他者への想像力を身につける。	文章で表現された物語世界を正しく理解する読解力に加え、文芸作品とそれに付随する人文科学、社会思想などの教養的書物を読み、それらについて語るための言語化の力、批評性を修得できる。他者の意見に耳を傾ける柔軟性をいかに、自分自身が文芸の世界でより活躍するために必要となる文章表現力と他者への想像力を発揮できる。	文章で表現された物語世界を正しく理解する読解力に加え、文芸作品とそれに付随する人文科学、社会思想などの教養的書物を読み、それらについて語るための言語化の力、批評性を修得できる。			
BUN99-2-015	応用	共通	文芸メソッド2	必修	2	講義	2	1Q							50			30	20	文芸表現において企画を「いかに」表現にするかといった形式論を学ぶ	自身の文芸表現として立案した企画を、文芸作品に仕上げるにあたって、そもそも「アウトプットには多様な形式がある」と知ったうえで適切な形式を選択していく方法論を学ぶ。また、「企画を立案し、それに適した形式を選び、作品を完成させる」という一連の営みを自発的かつ継続的に実践するための粘り強さを身につけ、言論の歴史や倫理、著作権法などの経緯も理解したうえで、現代において作品を「いかに」形式化するかについて、過去の名作が開拓してきた文脈をふまえて検討する。なお、一連の講義の理解を深めるために、自らの企画と形式について実践する演習的な課題も取り入れる。	文芸表現において、自身の企画に適した表現形式の専門的・基礎的な知識・技術を修得できる。企画を立案する時点から、「何を表現するか」と「いかに表現するか」とは不可分な関係にあることを念頭に置いて、語りや構造など、形式に自覚的な文芸表現を計画し、実践するための選択肢を理解できる。また、アウトプットのジャンルから自身の企画に適切な形式を選択し、自発的継続的に作品を完成させるために必要な知見を獲得できる。	文芸表現において、自身の企画に適した表現形式の専門的・基礎的な知識・技術を修得できる。企画を立案する時点から、「何を表現するか」と「いかに表現するか」とは不可分な関係にあることを念頭に置いて、語りや構造など、形式に自覚的な文芸表現を計画し、実践するために必要な知見を獲得できる。		
BUN99-3-028	応用	共通	進級研究・制作3	必修	3	講義・演習	4	4Q							10	10	20	20	20	20	20	作品展のふりかえりと、文芸的キャリア研究の総括的講義・実践	3年次作品展に出品した作品のクラス合評や教員講評を通して、それをより読者と社会を意識した高度な作品に昇華させるためにはどうすべきだったかを自己分析しながら「作品展のふりかえり報告書」を作成し、4年次卒業制作につなげる。また、これまでの研究・制作活動や、インターンをはじめとするキャリア研究活動など、学内外のすべての学びや活動をアーカイブ化し、それを社会と結びつけるための総括的なキャリア講義を受けながら、卒業後の進路を決めるための活動を本格化させる。	文芸表現にかんする多様な知識・技術を応用的・統合的に理解し、より社会と読者を意識した高度な文芸表現・作品について、論理的・分析的に考えることができる。また、これまでの研究・制作活動やキャリア研究などを社会と結びつけながら、卒業後の進路活動に積極的に取り組むことができる。	文芸表現にかんする多様な知識・技術を応用的・統合的に理解し、より社会と読者を意識した高度な文芸表現・作品について、論理的・分析的に考えることができる。
BUN99-3-029	発展	共通	文芸表現発展	必修	3	講義	2	1Q							60	20	20	文芸表現の学びを発展させて、実際に社会に働きかける	3年次インターンシップに参加するために、2年次までに修得してきた文芸表現の学びとキャリアについての十分な知識・思考と、社会進出への開かれた意識・関心を、発展的かつ主体的に運用する。全授業を通して自らの特性・関心・志向と、活動記録を自己分析し、さらに多種多様な文芸的なキャリア研究を重ねて、3年次インターンシップに参加したい企業のリサーチ・エントリーと、エントリーシートの演習に励む。	自らの特性・関心と、これまでの履修・活動の内容・記録を自己分析して、それらを多種多様な文芸的キャリアと結びつけながら、3年次インターンシップ参加のために必要な企業リサーチやプレエントリー、エントリーシートの作成について主体的に取り組むことができる。また、そこから発展させて、授業終了時までには10社以上のインターンにエントリーすることができる。	自らの特性・関心と、これまでの履修・活動の内容・記録を自己分析して、それらを多種多様な文芸的キャリアと結びつけながら、3年次インターンシップ参加のために必要な企業リサーチやプレエントリー、エントリーシートの作成について主体的に取り組むことができる。				
BUN99-3-030	応用	共通	文芸総合演習1	必修	3	演習	2	1Q										20	30	50	3年ゼミ1「作品展に向けて、自身が企画した研究・制作活動に取り組む」	これまでの履修内容や制作活動をふまえ、自身の興味・関心のあるテーマや、研究・制作を志す文芸ジャンルに適した授業を展開するクラスを選択し、主として学生作品展に向けて自身のテーマの追究や制作計画の実行に取り組むとともに、各ゼミでの活動にも積極的に参加する。また、文芸表現の学びを、自身の卒業後の進路や、社会そのものにどう結びつけていくのかを直接的・応用的に探究する。	自身の興味・関心についての体系的な理解と豊かな感性をもとに、独自性・必然性のある文芸作品を論理的に発想・構想することができる。また、企画した作品を、それにふさわしい形式で採用しながら、学生作品展に向けて具現化する活動に取り組むことができる。	自身の興味・関心と豊かな感性をもとに、独自性のある文芸作品を発想・構想することができる。また、企画した作品を学生作品展に向けて具現化する活動に取り組むことができる。	
BUN99-3-031	応用	共通	文芸総合演習2	必修	3	演習	2	2Q										20	30	50	3年ゼミ2「作品展に向けて、これまでの研究・制作活動をより進展させる」	自身の興味・関心のあるテーマや、研究・制作を志す文芸ジャンルに適した授業を受けながら、主として学生作品展に向けて、これまで取り組んできた研究・制作をより具体的に進展させるとともに、各ゼミでの活動にも積極的に参加する。また、文芸表現の学びを、自身の卒業後の進路と結びつけながら、インターンシップなど社会に働きかける取り組みも試行していく。	自身の興味・関心についての体系的な理解と豊かな感性をもとに、独自性・必然性のある文芸作品を論理的に発想・構想したうえで、企画した作品を、それにふさわしい形式や技巧、リーダビリティの高い文章、魅力的な固有の筆致によって書き進め、授業期間内に初稿を完成させることができる。	自身の興味・関心と豊かな感性をもとに、独自性のある文芸作品を発想・構想したうえで、企画した作品を、それにふさわしい形式や技巧、リーダビリティの高い文章によって書き進め、授業期間内に初稿を完成させる旨意をつけることができる。	
BUN99-3-032	応用	共通	文芸総合演習3	必修	3	演習	2	3Q										30	30	40	3年ゼミ3「作品展に向けて、自身が企画した研究・制作物を完成させる」	自身の興味・関心のあるテーマや、研究・制作を志す文芸ジャンルに適した授業を受けながら、主として学生作品展に向けて、これまで取り組んできた研究・制作を完成させるとともに、各ゼミでの活動にも積極的に参加する。また、文芸表現の学びを、自身の卒業後の進路と結びつけながら、実際に社会に出るための活動をスタートさせる。	自身の興味・関心についての体系的な理解と豊かな感性をもとに、独自性・必然性のある文芸作品を論理的に発想・構想したうえで、企画した作品を、それにふさわしい形式や技巧、リーダビリティの高い文章、魅力的な固有の筆致によって初稿完成まで書ききり、さらに授業内での合評や教員からの講評などを通して、学生作品展で発表するにふさわしい品質まで十分にブラッシュアップすることができる。	自身の興味・関心と豊かな感性をもとに、独自性のある文芸作品を発想・構想したうえで、企画した作品を、それにふさわしい形式や技巧、リーダビリティの高い文章によって書き進め、学生作品展までに作品を適切に完成させることができる。	
BUN99-4-045	発展	共通	卒業研究・制作	必修	4	演習	8	後期							10	10	20	10	30	20	卒制草稿のブラッシュアップから文庫本作成、卒業展企画・運営へ	4年次ゼミで書きあげた卒業制作の草稿を、教員からの試問・講評や改稿指示を受けて、より読者や社会を意識して適切にブラッシュアップし、学科に最終決定稿として本提出する。また、この原稿をもとに他者と協働しながら文庫本を制作し、かつ、それを一般読者に販売促進するための「卒業展」の企画・制作・運営についても他者と協働して取り組む。	4年間の集大成である卒業制作作品を文庫本として完成させ、それを一般読者に広く発表・販売するための卒業展を、他者との協働作業によって企画・制作・運営することを通じて、文芸表現の力を総合的に修得することができる。	4年間の集大成である卒業制作作品を文庫本として完成させ、それを一般読者に広く発表・販売するための卒業展を、他者との協働作業によって企画・制作・運営することができる。	
BUN99-4-046	発展	共通	文芸総合演習4	必修	4	演習	2	1Q										30	30	40	4年ゼミ4「卒業展に向けて、文芸表現の集大成となる卒業制作に取り組む」	自身の興味・関心のあるテーマや、研究・制作を志す文芸ジャンルに適した授業を受けながら、文芸表現の学びの集大成となる卒業制作としての文芸作品を企画・構想し、来る学科提出に向けて取材・執筆を開始する。また、その作品は卒業展で社会に広く発表することになるため、教員の指導をはじめとする多様な他者の意見を適切に取り入れながら品質向上に努める。	自身の興味・関心についての体系的な理解と豊かな感性をもとに、卒業制作にふさわしい独自性・必然性のある文芸作品を論理的に企画・構想したうえで、企画した作品を、それにふさわしい形式や技巧、リーダビリティの高い文章、魅力的な固有の筆致によって書き始めることができる。また、卒業展で社会や読者に広く発表するという高い目的意識をもって、授業内での多様な意見を取り入れながら、品質向上に努めることができる。	自身の興味・関心と豊かな感性をもとに、卒業制作にふさわしい独自性のある文芸作品を企画・構想したうえで、企画した作品を、それにふさわしい形式や技巧、リーダビリティの高い文章によって書き進め、卒業展で社会や読者に広く発表するということを念頭において、品質向上に努めることができる。	

ナンバリング	段階	コース	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学習目標	到達目標		
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6						
BUN99-4-047	発展	共通	文芸総合演習5	必修	4	演習	2	2Q							4年ゼミ「卒業展に向けて、卒業制作の草稿完成を目指す」	自身の興味・関心のあるテーマや、研究・制作を志す文芸ジャンルに適した授業を受けながら、これまで卒業制作として取り組んできた文芸作品の執筆をさらに加速させ、来る学科提出に向けて草稿完成の目処をつける。また、その作品は卒業展で社会に広く発表することになるため、授業内合評や教員の講評・指導や通して適切な品質向上に努める。	自身の興味・関心についての体系的な理解と豊かな感性をもとに、卒業制作にふさわしい独自性・必然性のある文芸作品を論理的に発想・構想し、企図した作品にふさわしい形式や技巧、リーダービリティの高い文章、魅力的な固有の筆致によって書き進めることができる。また、卒業展で社会や読者に作品を届けることを意識して、授業内合評や教員からの講評・指導を適切に取り入れながら、初稿完成の目処をつけることができる。	自身の興味・関心と豊かな感性をもとに、卒業制作にふさわしい独自性のある文芸作品を発想・構想し、企図した作品にふさわしい形式や技巧、リーダービリティの高い文章によって書き進めることができる。また、卒業展で社会や読者に作品を届けることを意識して、初稿完成の目処をつけることができる。			
BUN99-1-009	基礎	共通	文芸概論	選択	1・2	講義	2	4Q							70	文芸およびその周辺領域を概観し、文芸の可能性を考える	文芸およびそれを構成する諸ジャンルの成立過程の理解に基づき、文芸が「こうではなかった可能性」を考えることができる。またこのような「文芸」の理解を自身の興味と照らし合わせ、自分自身の「未来の文芸像」を想起することができる。	小説をはじめとする文芸を構成する諸ジャンルについて、その特徴だけではなく、個別具体的な成立過程を理解し、文芸というジャンルが現在の形をとるに至った背景を説明することができる。			
BUN99-1-010	基礎	共通	メディア演習基礎	選択	1・2	演習	2	1Q							100	文芸で学ぶために必要となるPCアプリの基礎操作修得	文芸表現学科での学修では、文芸作品の執筆はもちろんのこと、自らの考えを伝達したり、情報を共有したりするためにも、多様な文書類をPCで作成する能力が求められる。そうした力の基礎を築くことを目的とし、各種文芸作品をはじめ、その他にも論文やレポート、学内発表用資料などの文書類作成を念頭に、文芸で学ぶうえで必要となる、Word・Excel・PowerPointの基礎的な使い方を修得する。	各種アプリケーション/ソフトウェアの基礎的な使い方をマスターし、「情報がきちんと伝わる文書類」を作成するために必要な情報リテラシーを身につけることができる。またそのスキルを、言葉との関わりをなかで、どのように活かすかを考えることができる。	各種アプリケーション/ソフトウェアの基礎的な使い方をマスターし、「情報がきちんと伝わる文書類」を作成するために必要な情報リテラシーを身につけることができる。		
BUN99-2-016	発展	共通	百讀4	選択	2・3	講義	2	4Q							50	多様な文芸表現を文化的・社会的背景とともに読みとき、思索を深める	文芸作品とそれに付随する人文科学、社会思想などの教養的書物や、より専門的な関連文献を自らの探求心によって読み、それらについて正しく伝えられる言語化の力、自身の観点から考察する批評性を身につけられる。他者への想像力をベースに、プロフェッショナルな文芸の世界で通用する文章表現力と思考力を発揮できる。	文芸作品とそれに付随する人文科学、社会思想などの教養的書物や、より専門的な関連文献を自らの探求心によって読み、それらについて正しく伝えられる言語化の力、自身の観点から考察する批評性を身につけられる。			
BUN99-2-017	応用	共通	文芸創作ワークショップ3	選択	2・3	演習	2	2Q							20	30	50	文芸創作の発展編として、独自の作品を読者に届くように執筆する	文芸創作の発展編として、習作レベルを脱した独自性のある文芸作品を、見知らぬ読者に届くように執筆する。また、執筆した作品の合評や、教員からの講評、それを受けての改稿を通して、これまで修得してきた文芸創作の各種知識・メソッドを自覚的かつ適切に適用する力と、自身の衝動と読者を結びつける作品とはなにか、読者に届く固有の強度のある作品とはなにかについて、感性と論理の両面を考えていく。	企図した作品に適したリーダービリティの高い日本語文章力とや、文芸創作にかんする各種メソッドを適切に運用して、習作から一歩脱した独自性のある文芸作品を書ききることができる。また、執筆～合評・講評～改稿を通して、自身の衝動と読者を結びつける作品とはなにか、読者に届く固有の強度のある作品とはなにかについて、感性と論理の両面を考えることができる。	企図した作品に適したリーダービリティの高い日本語文章力とや、文芸創作にかんする各種メソッドを適切に運用して、習作から一歩脱した独自性のある文芸作品を書ききることができる。
BUN99-2-018	発展	共通	文芸創作ワークショップ4	選択	2・3	演習	2	3Q							30	30	40	社会に問えるレベルの文芸作品を執筆するエキスパート演習	各種新人賞への応募や、各界の現場への持ち込みなど、書き手としてプロデビューを目指すための文芸作品を執筆するエキスパートクラス。日本語文章の美しさやリーダービリティ、創作的な技巧・技術の高さだけでなく、「なにを書くのか」「どんな興行があるのか」などの主題・テーマ、すなわち企画段階から同時代的必然性や新規性、独自性などの社会的意義や魅力についても論理的に考え、「高い技術」「強い魅力」「新しい風」の三つの価値がハイレベルに結集する作品の創作を目指していく。	社会に問えるレベルの文芸作品を目指して、企画立案～構成～初稿執筆にいたる一連のプロセスにおいて、感性だけでなく論理的にも深い認識と自覚をもち、期日までに自己管理しながら作品を完成させることができる。また、その初稿作品について、授業内合評や教員講評を経て、適切に改稿を重ねるなどして、プロの書き手としての技能と姿勢を身につけられる。	社会に問えるレベルの文芸作品を目指して、企画立案～構成～初稿執筆にいたる一連のプロセスにおいて、感性だけでなく論理的にも深い認識と自覚をもち、期日までに自己管理しながら作品を完成させることができる。
BUN99-2-019	応用	共通	文芸と社会1	選択	2・3	演習	2	1Q							40	30	30	社会的課題・クライアントの要望を文芸表現の力で解決する(課題発見・分析)	社会的課題を発見する批評的な力を養う。具体的には社会的課題のテーマやクライアントの要望を掘り下げていく思考力を深め、他者と共有するために有効な手段(文芸イベントの開催、広報媒体の作成、文芸誌の発行など)と文芸的知見の活用を通じて、広く発信することを目指す。学内のみならず社会とつながり、学びを発展させるその意義を理解し、課題を正しく見出す。	社会的課題を発見し、学外の機関・企業・市民へ文芸的知見を還元するのに必要な社会的スキルを理解し、さらには身につけられる。	クライアントの要望を掘り下げ、学外の機関・企業・市民へ文芸的知見を還元するのに必要な社会的スキルを理解し、さらには身につけられる。
BUN99-2-020	応用	共通	文芸と社会2	選択	2・3	演習	2	2Q							40	30	30	社会的課題・クライアントの要望を文芸表現の力で解決する(プロセス・試作)	社会的課題を発見する批評的な力を養う。具体的には社会的課題のテーマやクライアントの要望を掘り下げていく思考力を深め、他者と共有するために有効な手段(文芸イベントの開催、広報媒体の作成、文芸誌の発行など)と文芸的知見の活用を通じて、広く発信する。学内のみならず社会とつながり、学びを発展させるその意義を理解し、現実化に向けて粘り強くリサーチし、企画立案・試作を繰り返す。	社会的課題を発見し、学外の機関・企業・市民へ文芸的知見を還元するのに必要な社会的スキルをもとに、現実のニーズの分析とソリューションの構築ができる。	クライアントの要望を掘り下げ、学外の機関・企業・市民への文芸的知見の還元と連携に必要な社会的スキルをもとに、現実のニーズの分析とソリューションの構築ができる。
BUN99-2-021	応用	共通	文芸と社会3	選択	2・3	演習	2	3Q							40	30	30	社会的課題・クライアントの要望を文芸表現の力で解決する(実践・総括)	社会的課題を発見する批評的な力を養う。具体的には社会的課題のテーマやクライアントの要望を掘り下げていく思考力を深め、他者と共有するために有効な手段(文芸イベントの開催、広報媒体の作成、文芸誌の発行など)と文芸的知見の活用を通じて、広く発信する。学内のみならず社会とつながり、学びを発展させるその意義を理解し、漏れのない準備・各種手配・記録・広報などを統率力をもって行ない、実践後は、そのフィードバックをまとめる。	社会的課題を発見し、学外の機関・企業・市民へ文芸的知見の還元と連携に、現実のニーズの分析とソリューションの構築をもとに、それらを実践・運営できる。	クライアントの要望を掘り下げ、学外の機関・企業・市民への文芸的知見の還元と連携に、現実のニーズの分析とソリューションの構築をもとに、それらを実践・運営できる。
BUN99-2-022	応用	共通	文芸論1	選択	2・3	講義	2	2Q							50		50	文芸作品をそれが創作された文化的、言語的コンテキストにおいて考える	文芸作品は、閉じたテキストとして読解、解釈、鑑賞することももちろん可能だが、そのいっぽうで、それが書かれた時代背景や文化的なコンテキスト、あるいはそれが書かれるさいに使われた言語に注目することによって、その解釈が広がる。深まることもしばしばである。本講義ではそのような、作品の文化的、言語的コンテキストを理解し、作品の解釈を深める方法を模索する。	授業内で提示された文芸作品について、その作品が創作された、あるいは作品中で描かれている文化・言語にかんする文脈的な知識・理解を手がかりに、自分の作品解釈を深めることができる。	授業内で提示された文芸作品について、その作品が創作された、あるいは作品中で描かれている文化・言語にかんする文脈的な知識・理解を手がかりに、自分の作品解釈を深めることができる。
BUN99-2-023	応用	共通	文芸論2	選択	2・3	講義	2	4Q							80	20		ゲームにおける物語性について、文芸表現の学びとの連続性のなかで考える	今日では小説、映画、マンガ、アニメなどと並んで、物語性が大きな意味をもつジャンルとなったゲームについて、その基本的な構造や多様な分類、物語性の特徴などを、歴史的な文脈もふまえて体系的に理解する。また、これまで学んできた物語創作論や編集的思考を応用して、ゲームにおける物語創作の基本理念や方法論について論理的・分析的に考察する。	ゲームの基本構造や、物語性の特徴を体系的に理解できる。また、文芸表現の学びを応用して、ゲームにおける物語創作について論理的に考察することで、文芸表現の可能性を拡大できる。	ゲームの基本構造や、物語性の特徴を体系的に理解できる。
BUN99-2-024	応用	共通	文芸論3	選択	2・3	講義	2	4Q							60	20	20	編集的思考による放送番組の企画制作論と、放送作家・脚本家について学ぶ	これまで修得してきた編集的思考や物語創作力は、それを応用することで、テレビ・ラジオなどの放送番組や映画といった映像コンテンツを企画・制作・編集することに活用できる。これを理解するために、まずは放送・映画の制作業界の基礎知識と構造を、出版・新聞・広告などの隣接するマスコミ他業種との関係のなかで体系的・歴史的に学ぶ。また、そこに古くから個人事業主として関与してきた「放送作家・脚本家」についての役割や教養も蓄えることで、文芸表現の可能性を拡大する。	これまで修得してきた編集的思考や物語創作力を、放送番組や映画の企画・制作・編集に活用して考えることができる。また、放送・映画業界の構造や、「放送作家・脚本家」についての基礎教養も修得することで、文芸表現の可能性を拡大できる。	これまで修得してきた編集的思考や物語創作力を、放送番組や映画の企画・制作・編集に活用して考えることができる。

ナンバリング	段階	コース	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標				
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6								
BUN99-2-025	応用	共通	メディア演習応用1	選択	2・3	演習	2	1Q						40			30	30	Adobe「Illustrator・Photoshop」を使った平面デザイン実践	平面デザイン表現(ポスター・フライヤー・名刺・冊子など、主に印刷物のグラフィックデザイン)に必要な技術をAdobe「Illustrator・Photoshop」を活用して実践的に学ぶ。そのために名刺やフライヤー、冊子などの簡単なデザイン制作の演習に取り組み、その演習を通して、各ソフトを使いこなす技術と同時に、平面デザインの基礎知識や実践的・応用的な理念についても修得する。	Adobe「Illustrator・Photoshop」を使いこなすスキルを身につけられる。また、それを活用して平面デザインについての基礎理解を修得し、実践的に応用することができる。	Adobe「Illustrator・Photoshop」を使いこなすスキルを身につけられる。	
BUN99-2-026	応用	共通	メディア演習応用2	選択	2・3	演習	2	3Q						40			30	30	Adobe「InDesign」を使った編集・ブックデザイン実践	Adobe「InDesign」を自在に使いこなすための基礎技術を学び、それを書籍や冊子のページ編集能力や、ブックデザインに活用するための専門的スキルを実践的に修得する。またページ編集やレイアウト、ブックデザインそのものについての創造的・美術的視座も養い、より良いデザインとはなにかについて、感性と論理の両面で深く探求する。	デザインの思考方法や、Adobe「InDesign」を使いこなすスキルを身につけられる。また、それを活用してブックデザインについての基礎理解や創造的・美術的視座を養い、実践的に応用できる。	デザインの思考方法や、Adobe「InDesign」を使いこなすスキルを身につけられる。	
BUN99-2-027	応用	共通	ライターズ・セミナー	選択	2・3	講義	2	夏期集中									50	50	学科外の作家による特別講義を受けて創作に臨む態度や姿勢を修得する	第一線で活躍する作家・ライターを招き、文芸創作にのぞむ態度や姿勢、新たな刺激を短期集中で修得する。講師の作品を講師とともに読み、その創作の実状に触れて、それを自身の創作に活かすとともに、自身の作品について授業内合評を経たうえで講師に読んでもらい、講評されることで、学科外の実作者という新鮮な視座からのアドバイスや気づきを獲得する。	第一線で活躍する作家・ライターに固有の知見に触れて、学科内の授業だけでは得られない技術や創作観などを身につけられる。また、それらを自身の創作に発展的に活かすことができる。	第一線で活躍する作家・ライターに固有の知見に触れて、学科内の授業だけでは得られない技術や創作観などを身につけられる。	
BUN99-3-033	発展	共通	文芸創作ワークショップ5	選択	3・4	演習	2	1Q							30			40	30	物語創作における「マンガと文芸」の相互作用について立体的に探求する	小説・ノンフィクションといった文章で構築・表現された物語と、マンガという絵と活字によって表現される物語、あるいは両者を仲介する脚本形式の文芸表現を行き来しながら、そのちがいが共通点、相互作用についての理解を深め、文芸表現の可能性を立体的に考察・探求する。また、自らが執筆した活字としての文芸作品が、絵や文章、コマ割り、ネームなどを通してマンガ的に表現される営みを通して、個人による活字表現だけでは辿りつけない新たな創作的観点を獲得する。	文芸による物語創作のもつ普遍性と、マンガとの相互作用によって広がる可能性・汎用性を十分に理解し、その成果を、自らが取り組む文芸表現に適切に活かすことができる。	文芸による物語創作のもつ普遍性と、マンガとの相互作用によって広がる可能性・汎用性を十分に理解できる。
BUN99-3-034	発展	共通	文芸創作ワークショップ6	選択	3・4	演習	2	2Q						30				40	30	物語創作における「映画と文芸」の相互作用について立体的に探求する	小説・ノンフィクションといった文章で構築・表現された物語と、映画という映像表現としての物語、あるいは両者を仲介する脚本形式の文芸表現を行き来しながら、そのちがいが共通点、相互作用についての理解を深め、文芸表現の可能性を立体的に考察・探求する。また、自らが執筆した活字としての文芸作品が、俳優や映像制作、映像編集などの映画の観点を通して立体化される営みを通して、個人による活字表現だけでは辿りつけない新たな創作的観点を獲得する。	文芸による物語創作のもつ普遍性と、映画との相互作用によって広がる可能性・汎用性を十分に理解し、その成果を、自らが取り組む文芸表現に適切に活かすことができる。	文芸による物語創作のもつ普遍性と、映画との相互作用によって広がる可能性・汎用性を十分に理解できる。
BUN99-3-035	応用	共通	文芸論4	選択	3・4	講義	2	2Q						50				50		文芸作品をはじめとする芸術作品の解釈・批評のための哲学・思想入門	文芸作品をはじめとする芸術作品を前にして、私たちは何を語りうることができるのだろうか？ 20世紀以降、哲学・思想におけるさまざまな理論・概念が作品の解釈へと援用されてきた。本講義では、現代のコンテクストのなかで作品を理解・批評するために必要な、哲学・思想における諸概念を解説し、その批評への実践的適用を試みる。	授業で直接とりあげた諸理論に限定せず20世紀哲学を俯瞰的に理解し、その理解を自身もつ芸術・文芸作品などの対象へと援用し、それらを一定の理論的な土台の上で論ずることができる。	授業内で提示される諸理論を正しく理解する。またその理解を自身もつ芸術・文芸作品などの対象へと援用し、それらを一定の理論的な土台の上で論ずることができる。
BUN99-3-036	応用	共通	文芸論5	選択	3・4	講義	2	2Q						40	30	30				オーラル・コミュニケーション能力の向上を図るため実践と理解	社会に対して開かれた存在としてのコミュニケーション能力を養うことを目的とし、実践的な授業を通じて「聞く」力、「話す」力の充実を図る。社会に開かれた、いわば大人の会話スキルを涵養するためには、まず、相手の話を真摯に聞く「傾聴」の態度を身につけ、さらに、的確な質問を投げかける「探究心」を持たなければならない。また、他者に伝わる話し方ができるようになるには、事実や具体的な根拠に基づきながら論理的に話の構文を作成する技量、つまり「考える力」が必要になる。就活などの場面を想定しつつ、話し言葉の構造を分析し、プレゼンテーションやディスカッションなどの実践を通じてそれらの理解を深めていく。	わかりやすく他者に伝わるための話し言葉の構造を理解し、コミュニケーションのためにどのような態度が必要なのかを理解できるようになる。さらに、その理解に基づいて、他者に思いをはせながらコミュニケーションをとるための「倫理観」を身につけることができる。最終的には、他者の話を傾聴し、自らの考えを根拠と論理に基づいて「声」を用いて伝えることができる。	わかりやすく他者に伝わるための話し言葉の構造を理解し、コミュニケーションのためにどのような態度が必要なのかを理解できるようになる。さらに、その理解に基づいて、他者に思いをはせながらコミュニケーションをとるための「倫理観」を身につけることができる。
BUN99-3-037	応用	共通	文芸論6	選択	3・4	講義	2	4Q						80				20		音楽と文芸が相互に影響しあってきた歴史的関係性について考察する	さまざまなクラシック音楽やポピュラー音楽、また、それらに基づいた古今東西の歌劇や音楽劇などを広く鑑賞し、さらにその専門的な教養についての講義を受けることで、音楽と戯曲文学、音楽のもつ物語性、歌詞と文学的詩歌の関係など、音楽と文芸が相互に影響しあってきたことについて、歴史的な文脈や社会背景も含めて考察する。	古今東西の多様な音楽・歌劇・音楽劇などが、いかに小説・戯曲・詩などの文学と相互に影響しあってきたか、その密接な関係性を歴史的な文脈や社会背景もからめながら独自に考察することができる。	古今東西の多様な音楽・歌劇・音楽劇などが、いかに小説・戯曲・詩などの文学と相互に影響しあってきたか、その密接な関係性を独自に考察することができる。
BUN99-3-038	応用	共通	文芸論7	選択	3・4	講義	2	4Q						60	20	20				落語(フィクション)、講談(ノンフィクション)といった伝統的な「話芸」によって成り立つ物語表現を体験し、その豊饒な歴史や基礎教養、話芸特有の「語り」の構造や形式を古典・新作ともに学ぶことで、ことばの表現がもつ「読む」「書く」こと以外の「話す」「聞く」ことの可能性と真髄、また創作落語や創作講談における「編む」ことと「生み出す」ことの汎用性についても理解を深める。	「話す」「聞く」ことで成り立つ話芸による物語表現の基礎教養をその歴史的背景もふまえて理解することができる。また、ことばの表現がもつ「読む」「書く」こと以外の可能性について、応用的な知識・思考を身につけられる。	「話す」「聞く」ことで成り立つ話芸による物語表現の基礎教養を、その歴史的背景もふまえて深く理解できる。	
BUN99-3-039	応用	共通	出版編集論1	選択	3・4	講義	2	1Q						70				30		校正・校閲と文芸、そして社会について考える	校正・校閲のプロセスは、私たちの出版文化の中で、文芸作品にかぎらずあらゆるテキストの出版の過程において絶対的な重要性をもつものであった。本授業では、校正・校閲の実践的なトレーニングを通じ、今日変わりつつあるメディア環境のなかで校正・校閲がもつ重要性をあらためて再確認すると同時に、出版の社会的責任についても考察する。	校正・校閲の作業の実践をつづじて、出版にともなう社会的責任はもろろんのこと、出版社、新聞社といった組織・法人の社会的な意義についても理解する。	出版・公表(publish)という行為にともなう社会的責任についての理解に基づき、本学科での活動のなかで自分がかかわるレベルのテキストについて適量なく校正・校閲の作業を行うことができるようになる。
BUN99-3-040	応用	共通	出版編集論2	選択	3・4	講義	2	3Q						70				30		リトルプレスやニューメディアから、ロングテール時代について考える	従来型のマスメディアによる情報発信が引き続き存在感を発揮するなかでも、多様化が進む現代においては、より専門性の高い作品や情報が供給されている。リトルプレスによる活動、サブスクリプションも含めた電子メディア上で発表される作品の成熟化、SNSや動画サイトなどウェブ展開も生かしたニューメディアの発展など、メディアにいかにか作品や情報を載せ、伝えるのかについてはリテラシーをもつ必要がある。旧来のベストセラー中心市場から消費行動が多様化し、一点ずつの売れ行きは少ないとしても総体としては幅広い商品が多く求められる「ロングテール時代」における作品や情報の「生成と受容」を考える。	現代社会において無視できない動きとして読者に受容されている、リトルプレスなどの小さなメディアによる情報発信について、ロングテール時代を理解しながら正確で客観的な知識を獲得する。これまでに蓄えてきた書き手や編み手としての能力を、マスメディアや個人のSNSのみならず、小さなメディアなど適切な規模で展開するという選択肢を想定し、時代性やメディアの規模に応じた伝え方について論ずることができる。	現代社会において無視できない動きとして読者に受容されている、リトルプレスなどの小さなメディアによる情報発信についての知見を獲得する。ロングテール時代について理解できる。